



手際よく新茶を摘んでいく摘み娘

今年も市内各地で新茶の収穫が始まりました。
作業のトップをきって、農業組合法人「グリーンティ土山」が管理している水口町の集団茶園内で4月25日、県内で今年初となる新茶の手摘みが行われました。
土山地域の方約30名が、手際よく新茶を摘み、12アールの面積から生葉約200キログラムを収穫しました。
収穫された茶葉は、この日のうちに製茶され翌々日には小売店に並びます。
今回の茶の生育について、同組合の代表は、「4月の寒さをネットで覆い防いだため順調に生育しており、良いものができる」と期待しています。

たぬきと人の大にぎわい

春のしがらき駅前陶器市

毎年恒例のしがらき駅前陶器市が4月27日から5月6日にかけて、信楽駅前広場で開催され、県内外から多くの来場者でにぎわいました。
信楽焼のブースやうまいもの市が並び会場では、日替わりオークションなどのイベントも行われ、お値打ちの一品を手に入れようと次々と声があがりました。
また、今回初めて信楽焼たぬきの修復を受け付ける「たぬき美容院」やたぬきを買い取る「たぬきの里帰り」が設置されました。
30年前に買ったたぬきを美容院に持ち込んだ大阪の夫婦は、「愛着があるので、直してもらって飾っておきたい」と話していました。



信楽焼たぬきを修復する「たぬき美容院」

製茶体験に挑戦する子どもたち

「近江の茶」の魅力にふれる

お茶づくり体験デー



「お茶づくり体験デー」が4月29日、滋賀県農業技術振興センターで開催されました。親子など約500名が参加し、お茶摘みや製茶体験を楽しみました。
製茶体験では、自分で摘み取った葉を加熱した後、冷やしながら手でみ、最後に陶板で、はしや手を使って約30分間動かしながら乾燥させます。
参加者は、しっかりと揉むことで香味豊かなお茶になるとアドバイスを受けながら、丁寧に作業していました。
ほかにもおいしいお茶のいれ方教室や、新茶の天ぷらなど茶葉を使った料理の試食などがあり、「近江の茶」の魅力を知る一日となりました。

元気なまちかど

曳山の勇壮な「宮入り」に歓声

水口曳山祭

「水口曳山祭」が4月19・20日の両日、水口町旧市街一帯で行われ、多くの人出で賑わいました。
江戸中期に起源を持ち、県無形民俗文化財に指定されている同祭礼は、市内唯一の曳山祭で、今年も16基ある曳山のうち4基が水口神社に奉納されました。
曳山と地域の引手一行は20日早朝、各地の山蔵を出発し、観客で埋まった神社までの道中をゆつくりと巡行しました。到着した神社境内では、テンポの良いお囃子に乗せて勇壮な「宮入り」を披露し、詰めかけた観客から大きな歓声が上がっていました。



水口神社境内に到着した曳山

ほら貝と太鼓が彩る雨乞いの舞

黒川の花笠太鼓踊り



棒を天に突き上げ雨乞いの舞を奉納する花笠太鼓踊り

県無形民俗文化財に指定されている土山町黒川の「花笠太鼓踊り」が4月21日行われ、約200名の観客が訪れました。
黒川を構成する四つの地域から踊り子一行が出発し、道中で他の一行と「出会い」、大宮神社境内で雨乞いの踊りを奉納します。
踊り子は、ほら貝と太鼓で奏でられる独特な拍子にあわせて、2mもある棒を振り回す、伝統の踊りを披露しました。この日、ほら貝を吹いた男性は「準備などは大変だが、地域の伝統を守っていきなさい」と、長く続く地域の営みを自らも受け継ぐことに誇らしく語っていました。

新たに75名が地域の健康づくりに活躍

平成25年度 甲賀市健康推進員委嘱状交付式

甲賀市健康推進連絡協議会定期総会が4月16日、甲南町忍の里プラザで開催されました。
総会に先立ち委嘱状交付式が行われ、中嶋市長から今年度新たに健康推進員となられた75名を代表し、小西康子さんに委嘱状が手渡されました。
75名の新しい健康推進員の皆さんは、昨年「食品と栄養の知識」をはじめ多岐にわたる養成講座を受けてこられました。
総勢489名の健康推進員の皆さんには今後、食事の講習会や啓発活動などさまざまなボランティア活動を繰り広げていただきます。地域の皆さんの健康保持・増進に健康推進員の皆さんの活躍が期待されます。

中嶋市長から委嘱状を受け取る小西さん

